

「主体的・対話的で深い学びの行方」



2018年6月7日(木)

桃山学院教育大学 今宮 信吾

本日のメニュー

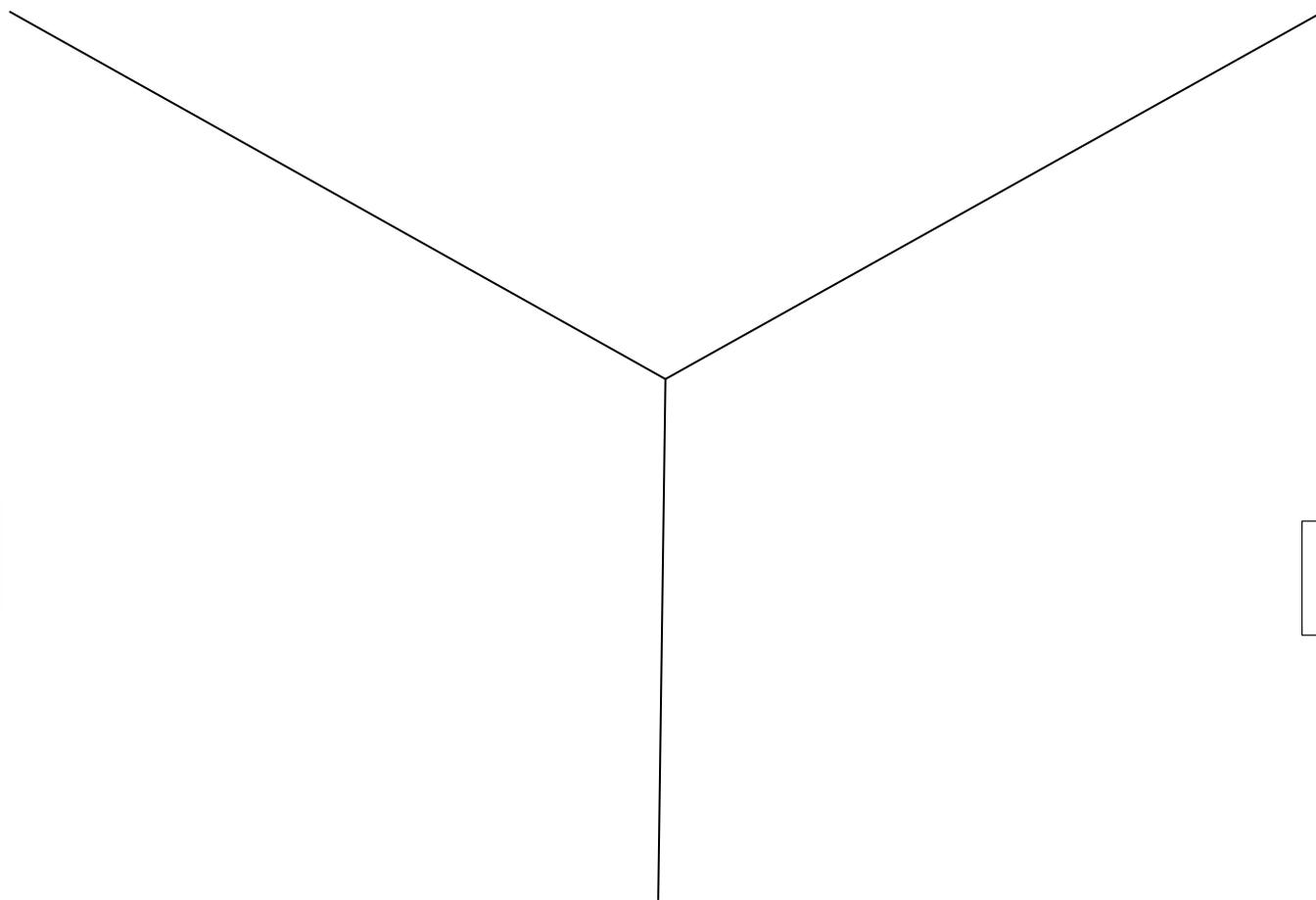
- 0 はじめに
- 1 新学習指導要領のポイント
- 2 これからの国語教育で課題
- 3 評価活動の在り方
- 4 おわりに

0 はじめに

童像

教師像

授業像



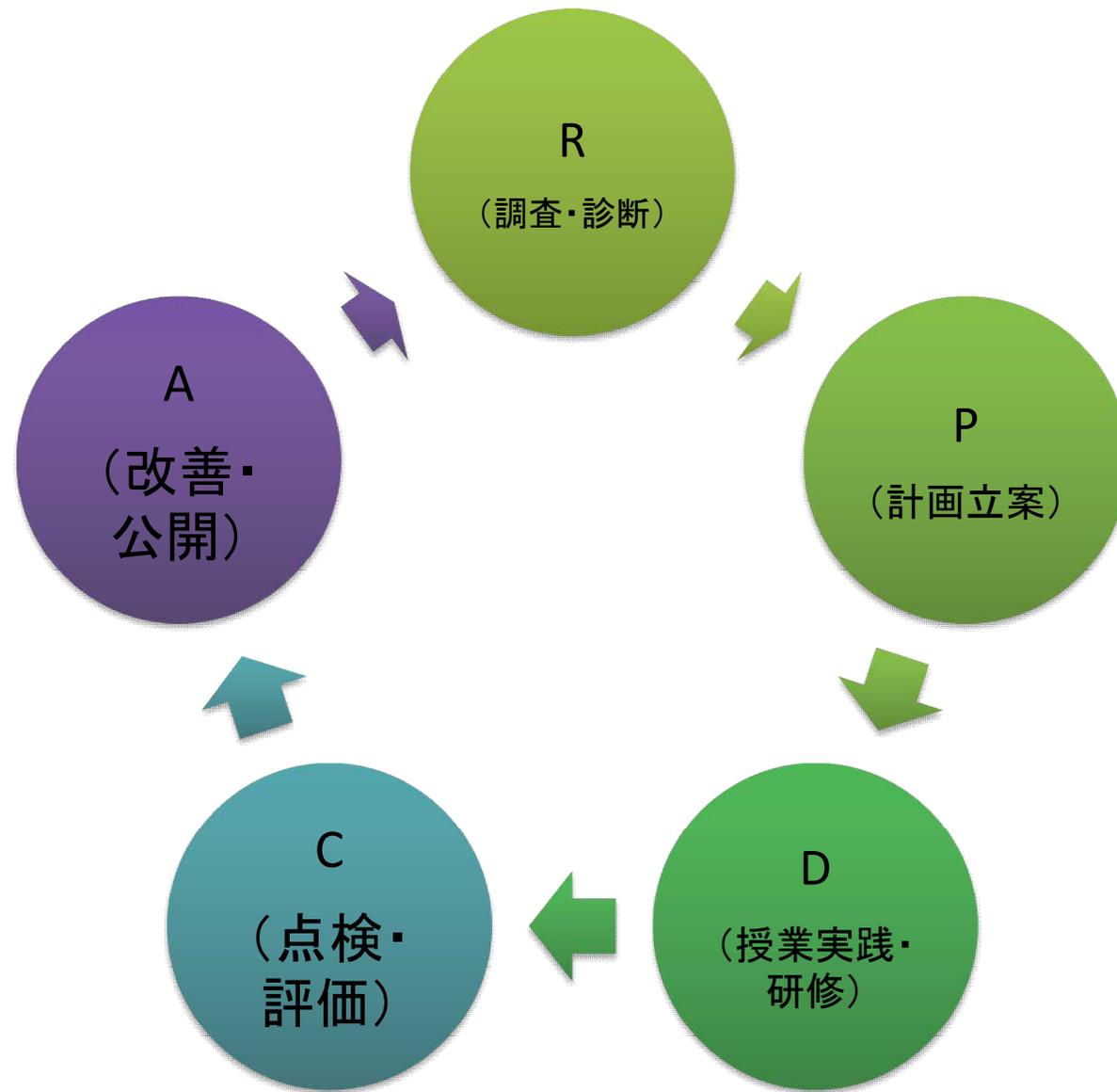
1 新学習指導要領のポイント

(1) 3つの観点

(2) 学び方

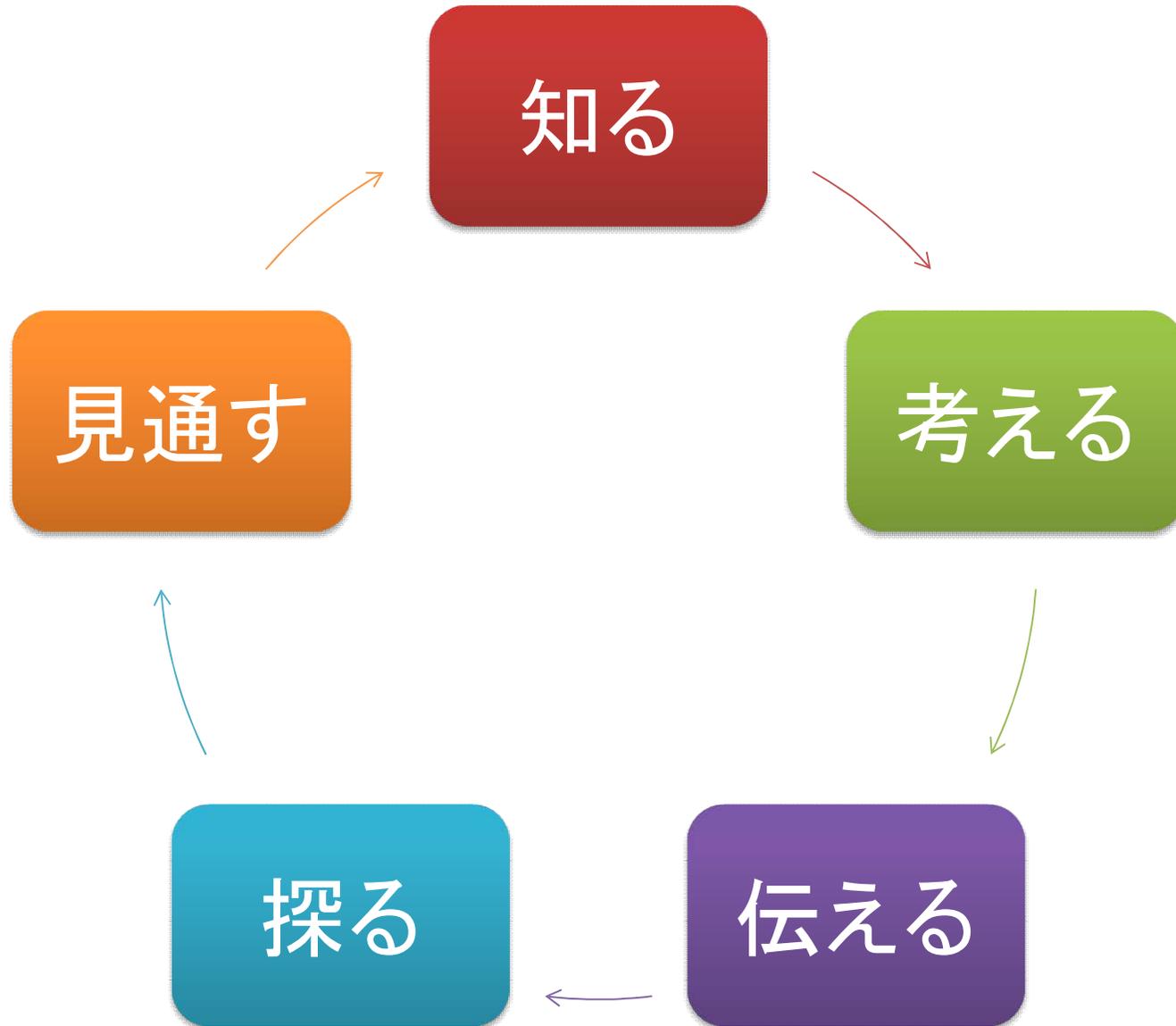
(3) カリキュラム・マネジメント

(4) 評価の在り方



「カリキュラム編成論
一子どもの総合学力を育てる学校づくり」
田中博之 NHK教育出版

思考力 RPDCA



授業について

深い学び

気づき→変容→習得→活用→探究

アクティブ・ラーニング
(能動的な学び)

語り合う→伝え合う→学び合う→紡ぎ合う

主体的な学び

対話的な学び

やらされている→自ら取り組む→没頭している

2 これからの国語教育で課題

(1) 指導技術

(2) 話し合い活動の活性化

(3) 伝統的な言語文化

(4) 語彙力

音読・暗唱は「脳力開発」を促す。

- ・脳科学者の川島隆太先生が「自分の脳は自分で育てる」の中で、実験や研究の結果「＜文章を声を出して読む＞ときに、脳は一番活発に働いている」ことを証明し、認知されている。
- ・世界のトップクラスの学力を確保していた江戸時代は、寺子屋、郷校、藩校があり、「素読」が学習の基本であった。
- ・ユダヤ人が大科学者や大富豪を輩出し、多方面で成功している要因は、三歳から暗唱するヘブライ聖典にあると言われています。
- ・学校に行かなかったカーネギー（世界の鉄鋼王）は、小さい時からスコットランドの英雄詩を音読・暗唱した。

覚え方

視覚・・・視写して覚える。言語化する。

聴覚・・・声に出して耳で覚える。

映像・・・物語のようにして覚える。

語呂・・・歴史の暗号のように語呂合わせで覚える。

3 評価活動の在り方りに

(1) 目標設定

(2) めあてとふりかえりの連動

(3) 評価と授業変容

1 めあてとふりかえりの連動

ふりかえり

メタ認知

モニタリング



コントロール

4 おわりに

(1) 教師としてのやりがい

(2) 学校チームとして

(3) 国際的視野に立つ